

【事例】住信SBIネット銀行株式会社様向け AWS活用開発案件

概要

地銀向けに開放しているローン審査API(アプリケーションプログラミングインターフェース)に、課金情報を照会可能とする画面機能を実現した。

既に開放している機能もサーバーレスを採用しており、本機能もサーバーレスでの実現にチャレンジした。画面機能をコンテナ化し、Amazon ECSを使用したサーバーレス構成を採用することでコスト抑制および開発期間短縮を実現した。

画面機能には高速開発パッケージ「Wagby」を採用した。

住信SBIネット銀行株式会社 様

住信SBI ネット銀行株式会社様は、三井住友信託銀行とSBI ホールディングスを出資会社とするインターネット専門の銀行です。

最先端のIT を駆使したイノベーションによって金融サービスを変革し、社会をより快適で便利なものに変えていく企業様で、インターネット専門銀行における預金総残高はNo.1となります。

弊社は2016年からIT ベンダーとしてご支援させていただいております。

お客様の課題

- ・開発/運用コストの抑制。
- ・短期間での開発。
- ・既存のAWS基盤上でのシステム稼働。

システム化の課題・チャレンジポイント

- ・Amazon ECS活用にチャレンジ
システムをサーバーレス構成とすべく、当社として未経験のAmazon ECSを使用したシステム構成にチャレンジ。
- ・高速開発パッケージ「Wagby」の活用
画面機能に高速開発ツール「Wagby」を採用。
Amazon ECS上で期待した動作となるか、アプリケーションをコンテナ化してPoC検証を実施。
- ・コンテナ起動時のリソース確保
Amazon ECSコンテナの起動時に、Wagbyで大量のリソースを必要とすることが判明。
リソース確保の対策が必要となった。

AWSを選んだ理由

スピード感を持った案件対応が必要であり、また、お客様が全社的にAWS上で開発基盤を実現済みであることからAWSを利用。

【事例】住信SBIネット銀行株式会社様向け AWS活用開発案件

活用したAWSソリューション

AWSのサービスを活用したサーバーレス構成でシステムを実現することにより、課題を解決した。

- Amazon ECS
- Amazon ECR
- AWS CodePipeline
- AWS CodeCommit

課題解決にあたり、システムの安定稼働に耐えうるリソースの確保が可能なこと、パフォーマンスに影響のない範囲でのコンテナサイズの調整が可能な点などを初期検討段階で検証した。

AWS導入効果

- Amazon ECSを活用したシステム構成の実現により、Amazon EC2を用いた場合と比較してランニングコストを低減した。
- Amazon ECSのオートスケール機能を利用することにより、使用状況に応じた最適なタスク数に自動で調整が可能となった。
キャパシティプランの立案・運用に関わるコスト低減と、開発期間短縮を実現した。

お客様の声：株式会社ハイマックスを選ぶ理由

既存システムの担当ベンダーであったこと、および、AWSを活用したシステム開発にいち早く着手したベンダーであり、ノウハウが蓄積されていたため。

今後の展開

本事例のシステムはAmazon EC2を用いた構成でも構築は可能であったが、Amazon ECSを活用したサーバーレス構成としたことによりランニングコストの低減に成功した。

今後のシステム開発ではAWSを活用したシステム構成が増加することが見込まれる。今後の開発においても本案件のノウハウを活かしたコスト抑制を実現していく。

本件に関するお問合せ先

株式会社ハイマックス 営業本部

Web: <https://www.himacs.jp> E-mail: aws-hm@himacs.co.jp

当社は、コンピュータ・ソフトウェアのシステム・ライフサイクルの各領域にわたり高付加価値ソリューションを提供するバリュー・ソリューションサービス事業を営んでいます。

当社は、2018年1月18日より、APN(AWS Partner Network)セレクトコンサルティングパートナーに認定されています。



※会社名、製品名、ロゴなどは、各社の登録商標または、商標です。

※アマゾン ウェブ サービス及びAWSは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

※記載されている企業名および担当者の情報は取材当時のものです。